

# 目次

## 食物栄養学科

	ページ
1. 調査対象大学等の概要等 . . . . .	1
2. 授業科目の概要 . . . . .	5
3. 施設・設備の整備状況、経費 . . . . .	11
4. 既設大学等の状況 . . . . .	12
5. 教員組織の状況 . . . . .	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等 . . . . .	20
7. その他全般的事項 . . . . .	21

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 須賀学園

## (2) 大学名

宇都宮短期大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒321-0346

栃木県宇都宮市下荒針町長坂3829

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(スカ アツシ) 須賀 淳 (昭和57年9月)	(スカ ヒデユキ) 須賀 英之 (平成31年4月)	体調不良のため変更, 平成31年4月(元)
学長	(スカ ヒデユキ) 須賀 英之 (平成16年4月)		
学部長			
学科長等	(モモタ ヒロコ) 百田 裕子 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)  
令和2年度に報告する内容 → (2)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。  
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。  
 ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)  
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
食物栄養学科 短期大学士 (食物栄養学)	家政関係	2年	30人	年次一人	60人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。  
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。  
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	30 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	30 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	0.75倍	一倍	
志願者数	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	39 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	40 ( ) [ - ]	( ) [ - ]			
受験者数	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	39 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	38 ( ) [ - ]	( ) [ - ]			
合格者数	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	36 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	38 ( ) [ - ]	( ) [ - ]			
B 入学者数	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	( ) [ - ]	20 ( ) [ - ]	( ) [ - ]	25 ( ) [ - ]	( ) [ - ]			
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	0.67	-	0.83	-			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。  
 ・ 転入学生は記入しないでください。  
 ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	20 [ — ] (—)	— [ — ] (—)	25 [ — ] (—)	— [ — ] (—)	
2年次			— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	20 [ — ] (—)	— [ — ] (—)	
3年次					— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)
4年次					— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)
計			— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	— [ — ] (—)	20 [ — ] (—)	— [ — ] (—)	45 [ — ] (—)

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	20 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	45 人	0 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
合 計		0 人		— 人	— 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{45} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<食物栄養学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	科 基 目 幹	全人教育講座	1前	2			3	1				10
		キャリアデザイン	1前	1								1
	教養基礎科目	化学	1前	2			1					1
		生物学	1後	2								1
		数学	1前	2								1
		生活科学	1後	2								1
		歴史学	2前	2								1
		心理学	1後	2								1
		社会学	2後	2								1
		法学	2前	2								1
	経済学	2前	2								1	
	教養演習科目	英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		情報処理 I	1前	1								1
		情報処理 II	1後	1								1
		生活技術	1後	1			1					1
	体育実技	1前	1								1	
(小計17科目)			—	3	24		3	1	0	0	0	16
専門教育科目	社会福祉概論	社会福祉概論	2後	2								1
		公衆衛生学	2前	2			1					
	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2								1
		解剖生理学 II	1後	2			1					
		解剖生理学実験	2前	1			1				3	
		生化学	2前	2			1					
		生化学実験	2後	1			1				3	
	運動生理学	2後	2			1					1	
	食品と衛生	食品衛生学	1前	2			1					
		食品衛生学実験	1前	1			1				3	
		食品学 I	1後	2								1
		食品学 II	2前	2								1
		食品学実験 I	1後	1							3	1
	食品学実験 II (食品加工学実習含む)	2後	1							3	1	
	栄養と健康	基礎栄養学	1前	2					1			
		栄養化学	1前	2			1					
		栄養化学実験	1後	1			1				3	
		臨床栄養学	1後	2				1				
		臨床栄養学実習	1後	1				1				3
		ライフステージと食生活	1後	2				1				1
ライフステージ栄養学実習	2前	1				1				1		
栄養の指導	栄養指導論 I	1後	2					1				
	栄養指導論 II	2前	2					1				
	栄養指導実習 I	1後	1					1		3		
	栄養指導実習 II	2前	1					1		3		
	公衆栄養学	2後	2								1	
給食の運営	調理学	1前	2						1			
	調理学実験	1後	1						1	3		
	調理学実習 I	1前	1						1	3		
	調理学実習 II	2前	1						1	3		
	給食管理	1後	2				1					
	給食管理実習 I	2前	1				1			3		
給食管理実習 II (校外実習)	2後	2				2	1	1	3			

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教育科目	基 幹 科 目	全人教育講座	1前	2			3	1				10
		キャリアデザイン	1前	1								1
	教養基礎科目	化学	1前	2			1					1
		生物学	1後	2								1
		数学	1前	2								1
		生活科学	1後	2								1
		歴史学	2前	2								1
		心理学	1後	2								1
		社会学	2後	2								1
		法学	2前	2								1
	経済学	2前	2								1	
	教養演習科目	英語 I	1前	1								1
		英語 II	1後	1								1
		情報処理 I	1前	1								1
		情報処理 II	1後	1								1
		生活技術	1後	1			1					1
	体育実技	1前	1								1	
(小計17科目)			—	3	24		3	1	0	0	0	15
専門教育科目	社会福祉概論	社会福祉概論	2後	2								1
		公衆衛生学	2後	2			1					
	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1後	2								1
		解剖生理学 II	1後	2			1					
		解剖生理学実験	2前	1			1				3	
		生化学	2前	2			1					
		生化学実験	2後	1			1				3	
	運動生理学	2後	2			1					1	
	食品と衛生	食品衛生学	1前	2			1					
		食品衛生学実験	1前	1			1				3	
		食品学 I	1後	2								1
		食品学 II	2前	2								1
		食品学実験 I	1後	1							3	1
	食品学実験 II (食品加工学実習含む)	2後	1							3	1	
	栄養と健康	基礎栄養学	1前	2					1			
		栄養化学	1前	2			1					
		栄養化学実験	1後	1			1				3	
		臨床栄養学	1後	2				1				
		臨床栄養学実習	1後	1				1				3
		ライフステージと食生活	1後	2				1				1
ライフステージ栄養学実習	2前	1				1				1		
栄養の指導	栄養指導論 I	1後	2						1			
	栄養指導論 II	2前	2						1			
	栄養指導実習 I	1後	1						1		3	
	栄養指導実習 II	2前	1						1		3	
	公衆栄養学	2後	2								1	
給食の運営	調理学	1前	2							1		
	調理学実験	1後	1						1	3		
	調理学実習 I	1前	1							3	1	
	調理学実習 II	2前	1							3	1	
	給食管理	1後	2				1					
	給食管理実習 I	2前	1				1				3	
給食管理実習 II (校外実習)	2後	2				2	1	1	3			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	食物栄養学演習Ⅰ	2前	1			2	1	1	1			
	食物栄養学演習Ⅱ	2後	1			2	1	1	1			
	調理学実習Ⅲ	2前	1						1	3		
	調理学実習Ⅳ	2後	1					1		3		
	製菓実習	1前	1						1	3		
	フードスペシャリスト論	1前	2								1	
	食品の官能評価・鑑別論	2前	2					1				
	食品の消費と流通	1後	2								1	
	フードコーディネータ論	2後	2			1						
	子どもと食育	2前	1			1					1	
	子どもの保健	1後	1								1	
	高齢者と栄養	2後	1					1				
	野外活動	1前	1								1	
	美容福祉Ⅰ	1後	2								2	
	美容福祉Ⅱ	2前	1								1	
	食品の安全	2前	2			1						
	栄養とスポーツ	2前	2								1	
	フードビジネス論	1後	2								1	
食物栄養特別演習	2後	1			2	1	1	1				
小計 (52科目)			44	35	0	3	2	1	1	3		
合計 (69科目)		-	47	59	0	3	2	1	1	-	兼25	
卒業要件及び履修方法												
「基礎教育科目」から10単位以上（うち「基幹科目」2科目3単位を必修）、「専門教育科目」から52単位以上を修得し、62単位以上を修得すること。 （履修科目の登録上限：49単位（年間））履修科目の登録上限については、宇都宮短期大学食物栄養学科履修細則で定める。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	食物栄養学演習Ⅰ	2前	1			2	1	1				
	食物栄養学演習Ⅱ	2後	1			2	1	1				
	調理学実習Ⅲ	2前	1							3	1	
	調理学実習Ⅳ	2後	1							3		
	製菓実習	1前	1						1	3		
	フードスペシャリスト論	1前	2								1	
	食品の官能評価・鑑別論	2前	2					1				
	食品の消費と流通	1後	2								1	
	フードコーディネータ論	2後	2			1						
	子どもと食育	2前	1			1					1	
	子どもの保健	1後	1								1	
	高齢者と栄養	2後	1					1				
	野外活動	1前	1								1	
	美容福祉Ⅰ	1後	2								2	
	美容福祉Ⅱ	2前	1								1	
	食品の安全	2後	2			1						
	栄養とスポーツ	2前	2								1	
	フードビジネス論	1後	2								1	
食物栄養特別演習	2後	1			2	1	1	1			1	
小計 (52科目)			44	35	0	3	2	2	0	3		
合計 (69科目)		-	47	59	0	3	2	2	0	-	兼30	
卒業要件及び履修方法												
「基礎教育科目」から10単位以上（うち「基幹科目」2科目3単位を必修）、「専門教育科目」から52単位以上を修得し、62単位以上を修得すること。 （履修科目の登録上限：49単位（年間））履修科目の登録上限については、宇都宮短期大学食物栄養学科履修細則で定める。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	基幹科目	全人教育講座	1前	2			3	1					10
		キャリアデザイン	1前	1									1
	教養基礎科目	化学	1前	2			1						1
		生物学	1後	2									1
		数学	1前	2									1
		生活科学	1後	2									1
		歴史学	2前	2									1
		心理学	1後	2									1
		社会学	2後	2									1
		法学	2前	2									1
	経済学	2前	2									1	
	教養演習科目	英語 I	1前	1									1
		英語 II	1後	1									1
		情報処理 I	1前	1									1
		情報処理 II	1後	1									1
		生活技術	1後	1			1						1
		体育実技	1前	1									1
(小計17科目)			—	3	24		3	1	0	0	0	15	
専門教育科目	社会福祉学	社会福祉概論	2後	2									1
		公衆衛生学	2前	2			1						1
	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1前	2									1
		解剖生理学 II	1後	2			1						1
		解剖生理学実験	2前	1			1					3	1
		生化学	2前	2			1						1
		生化学実験	2後	1			1					3	1
		運動生理学	2後	2									1
	食品と衛生	食品衛生学	1前	2			1						1
		食品衛生学実験	1前	1			1					3	1
		食品学 I	1後	2									1
		食品学 II	2前	2									1
		食品学実験 I	1後	1								3	1
		食品学実験 II (食品加工学実習含む)	2後	1								3	1
	栄養と健康	基礎栄養学	1前	2					1				1
		栄養化学	1前	2			1						1
		栄養化学実験	1後	1			1					3	1
		臨床栄養学	1後	2					1				1
		臨床栄養学実習	1後	1					1			3	1
		ライフステージと食生活	1後	2									1
	栄養の指導	ライフステージ栄養学実習	2前	1									1
		栄養指導論 I	1後	2					1				1
		栄養指導論 II	2前	2					1				1
		栄養指導実習 I	1後	1					1			3	1
		栄養指導実習 II	2前	1					1			3	1
		公衆栄養学	2後	2									1
	給食の運営	調理学	1前	2									1
調理学実験		1後	1								3	1	
調理学実習 I		1前	1								3	1	
調理学実習 II		2前	1								3	1	
給食管理		1後	2					1				1	
給食管理実習 I		2前	1					1			3	1	
給食管理実習 II (校外実習)		2後	2					1				1	



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	食物栄養学演習Ⅰ	2前		1		2	1	1	1			
	食物栄養学演習Ⅱ	2後		1		2	1	1	1			
	調理学実習Ⅲ	2前		1					1		3	
	調理学実習Ⅳ	2後		1				1			3	
	製菓実習	1前		1					1		3	
	フードスペシャリスト論	1前		2								1
	食品の官能評価・鑑別論	2前		2					1			
	食品の消費と流通	1後		2								1
	フードコーディネータ論	2後		2		1						
	子どもと食育	2前		1		1						1
	子どもの保健	1後		1								1
	高齢者と栄養	2後		1					1			
	野外活動	1前		1								1
	美容福祉Ⅰ	1後		2								2
	美容福祉Ⅱ	2前		1								1
	食品の安全	2前		2		1						
	栄養とスポーツ	2前		2								1
	フードビジネス論	1後		2								1
食物栄養特別演習	2後		1		2	1	1	1				
小計(52科目)			44	35	0	3	2	1	1	3		
合計(69科目)		-	47	59	0	3	2	1	1	-	29	
卒業要件及び履修方法												
「基礎教育科目」から10単位以上(うち「基幹科目」2科目3単位を必修)、「専門教育科目」から52単位以上を修得し、62単位以上を修得すること。 (履修科目の登録上限:49単位(年間))履修科目の登録上限については、宇都宮短期大学食物栄養学科履修細則で定める。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和元年度】**

- ・関東信越厚生局からの指導により、「運動生理学」「ライフステージと食生活」「ライフステージ栄養学実習」の科目担当者を専任から兼任教員へ変更。
- ・関東信越厚生局からの指導により、「給食管理実習Ⅱ（校外実習）」を「准教授2講師1助教1」から「准教授1」に変更。
- ・兼任教員変更に伴い、小計・合計数の変更

**【令和2年度】**

- ・助教の退任・専任講師の採用（兼任講師より）により、「製菓実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「講師1」、「調理実習Ⅲ」「食物栄養特別演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「兼任1」に変更。
- ・兼任教員から専任講師へ変更により、「調理学」「調理学実験」を「兼任1」から「講師1」に変更。
- ・兼任教員(医師)の「解剖生理学Ⅰ」が新型コロナウイルス感染対策のため、前期授業の開講が不能となり、前期授業を後期へ変更。また、専任教員担当の「公衆衛生学」・「食品の安全」の2科目を前期から後期へ変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
27 科目	42 科目	0 科目	69 科目	27 科目 [ 0 ]	42 科目 [ 0 ]	0 科目 [ 0 ]	69 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{69} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	宇都宮共和大学 (必要面積3,100㎡) と共用					
	校舎敷地	— ㎡	37,102 ㎡	— ㎡	37,102 ㎡						
	運動場用地	— ㎡	19,897 ㎡	— ㎡	19,897 ㎡						
	小 計	— ㎡	56,999 ㎡	— ㎡	56,999 ㎡						
	そ の 他	— ㎡	11,761 ㎡	— ㎡	11,761 ㎡						
	合 計	— ㎡	68,760 ㎡	— ㎡	68,760 ㎡						
(2) 校 舎	専 用	— ㎡	13,654㎡	— ㎡	13,654㎡	宇都宮共和大学 (必要面積3,008㎡) と共用					
	( ㎡)	( ㎡)	(13,654㎡)	( ㎡)	(13,654㎡)						
(3) 教 室 等	講 義 室	20室	演 習 室	1室	実験実習室	9室 10室(2)	情報処理学習施設	1室 (補助職員一人)	語学学習施設	1室 (補助職員一人)	大学全体 会議室を製菓実習室 に改修(2)
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	宇都宮共和大学子ども 生活学部・宇都宮短期 大学全体での共用分 図書58,558冊—59,520冊 学術雑誌91種 電子ジャーナル 1,000点 視聴覚資料 12,107点 機械・器具 4,566点 標本77点			
	食物栄養学科	2,350 [50] —(2,456 [61])— <b>(2,904 (70)) (2)</b>	11 [3] (44 [3]) <b>(15 [3]) (2)</b>	0 [-] 0 [-] 0 [-]	19 (42) <b>(43) (2)</b>	430 (467) <b>(471) (2)</b>	6 (20) (20)				
	計	2,350 [50] (2,904 (70))	11 [3] (15 [3])	0 [-] 0 [-]	19 (43)	430 (471)	6 (20)				
	(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
		758 ㎡		120席		60,000冊					
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大 学 全 体				
	1,567 ㎡		テ ニ ス コ ー ト 4 面								
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	—千円	300千円	図書購入費	8,380千円	1,000千円	1,000千円			
		共同研究費等	—千円	1,000千円	設備購入費	58,978千円	3,000千円	2,000千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			1370千円	1070千円	—千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		学校法人全体予算充当及び補助金により運営									

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称		宇都宮短期大学									備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
音楽科	2	40	—	80	短期大学士 (音楽)	0.61	0.77	—	昭和42	栃木県宇都宮市 下荒針町長坂 3829	
人間福祉学科	2	50	—	100	短期大学士 (人間福祉)	0.57	0.6	—			
社会福祉専攻	2	30	—	60	短期大学士 (人間福祉)	0.75	0.80	—	平成13	同上	
介護福祉専攻	2	20	—	40	短期大学士 (人間福祉)	0.30	0.30	—	平成13	同上	
食物栄養学科	2	30	—	60	短期大学士 (食物栄養 学)	0.75	0.83	—	平成31	同上	
大学全体	2	120	—	240				—	—	—	

  

大学 の 名 称		宇都宮共和大学									備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
シティライフ学部 シティライフ学科	4	60	—	240	学士 (経済学)	1.16	1.45	—	平成11	栃木県宇都宮市大通 り1丁目3番18号	
子ども生活学部 子ども生活学科	4	70	—	310	学士 (子ども生 活学)	0.61	0.83	—	平成23	栃木県宇都宮市 下荒針町長坂 3829	平成30年度 定員変更 (△30)
大学全体	4	130	—	550							

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<食物栄養学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学科長)		全人教育講座※ 生活技術 フードコーディネーター論 子どもと食育※
専	教授		全人教育講座※ 食品衛生学 食品衛生学実験 食品の安全 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※ 公衆衛生学
専	教授		全人教育講座※ 化学 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験 生化学 生化学実験 運動生理学 栄養化学 栄養化学実験 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	准教授		給食管理 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ(校外実習)
専	准教授		全人教育講座※ 臨床栄養学 臨床栄養学実習 給食管理実習Ⅱ(校外実習) 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ ライフステージと食生活 ライフステージ栄養学実習 食物栄養特別演習※
専	講師		基礎栄養学 栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ 栄養指導実習Ⅱ 給食管理実習Ⅱ(校外実習) 食品の官能評価・鑑別論 調理学実習Ⅳ 高齢者と栄養 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	助教		調理学 調理学実験 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 調理学実習Ⅲ 給食管理実習Ⅱ(校外実習) 製菓実習 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
兼任	教授		全人教育講座※ キャリアデザイン 生活科学 フードスペシャリスト論 食品の消費と流通
兼任	教授		全人教育講座※ 社会学 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学科長)		全人教育講座※ 生活技術 フードコーディネーター論 子どもと食育※
専	教授		全人教育講座※ 食品衛生学 食品衛生学実験 食品の安全 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※ 公衆衛生学
専	教授		全人教育講座※ 化学 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験 生化学 生化学実験 栄養化学 栄養化学実験 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	准教授		給食管理 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ(校外実習)
専	准教授		全人教育講座※ 臨床栄養学 臨床栄養学実習 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	講師		基礎栄養学 栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ 栄養指導実習Ⅱ 食品の官能評価・鑑別論 調理学実習Ⅳ 高齢者と栄養 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	助教		調理学実習Ⅲ 製菓実習 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
兼任	教授		全人教育講座※ キャリアデザイン 生活科学 フードスペシャリスト論 食品の消費と流通
兼任	教授		全人教育講座※ 社会学 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授(学科長)		全人教育講座※ 生活技術 フードコーディネーター論 子どもと食育※
専	教授		全人教育講座※ 食品衛生学 食品衛生学実験 食品の安全 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※ 公衆衛生学
専	教授		全人教育講座※ 化学 解剖生理学Ⅱ 解剖生理学実験 生化学 生化学実験 栄養化学 栄養化学実験 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	准教授		給食管理 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ(校外実習)
専	准教授		全人教育講座※ 臨床栄養学 臨床栄養学実習 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	講師		基礎栄養学 栄養指導論Ⅰ 栄養指導論Ⅱ 栄養指導実習Ⅰ 栄養指導実習Ⅱ 食品の官能評価・鑑別論 調理学実習Ⅳ 高齢者と栄養 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
専	助教		調理学実習Ⅲ 製菓実習 食物栄養学演習Ⅰ 食物栄養学演習Ⅱ 食物栄養特別演習※
兼任	教授		全人教育講座※ キャリアデザイン 生活科学 フードスペシャリスト論 食品の消費と流通
兼任	教授		全人教育講座※ 社会学 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	全人教育講座※ 社会福祉概論
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※ 子どもと食育※
兼任	教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	解剖生理学Ⅰ
兼任	講師	歴史学 生物学
兼任	講師	美容福祉Ⅰ※
兼任	講師	経済学 数学
兼任	講師	フードビジネス論
兼任	講師	体育実技 野外活動
兼任	講師	子どもの保健
兼任	講師	公衆栄養学
兼任	講師	食品学Ⅰ 食品学Ⅱ
兼任	講師	心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	社会福祉概論
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※ 子どもと食育※
兼任	教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	教授	歴史学 生物学 全人教育講座※
兼任	講師	美容福祉Ⅰ※
兼任	講師	経済学 数学
兼任	講師	フードビジネス論
兼任	講師	体育実技 野外活動
兼任	講師	子どもの保健
兼任	講師	公衆栄養学
兼任	講師	食品学Ⅱ ライフステージと食生活
兼任	講師	心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	社会福祉概論
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	准教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※ 子どもと食育※
兼任	教授	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	講師	全人教育講座※
兼任	教授	歴史学 生物学 全人教育講座※
兼任	講師	美容福祉Ⅰ※
兼任	講師	経済学 数学
兼任	講師	フードビジネス論
兼任	講師	体育実技 野外活動
兼任	講師	子どもの保健
兼任	講師	公衆栄養学
兼任	講師	食品学Ⅱ ライフステージと食生活
兼任	講師	心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		栄養とスポーツ
兼任	講師	
		法学
兼任	講師	
		美容福祉Ⅰ※ 美容福祉Ⅱ
兼任	講師	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	
		食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ(食品加工学実習含む)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		栄養とスポーツ
兼任	講師	
		法学
兼任	講師	
		美容福祉Ⅰ※ 美容福祉Ⅱ
兼任	講師	
兼任	講師	
兼任	講師	
		解剖生理学Ⅰ
兼任	講師	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	
		食品学Ⅰ 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ(食品加工学実習含む)
兼任	講師	
		ライフステージ栄養学実習
兼任	講師	
		調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ
兼任	講師	
		運動生理学
兼任	講師	
		調理学 調理学実験

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	
		栄養とスポーツ
兼任	講師	
		法学
兼任	講師	
		美容福祉Ⅰ※ 美容福祉Ⅱ
兼任	講師	
兼任	講師	
		解剖生理学Ⅰ
兼任	講師	
		英語Ⅰ 英語Ⅱ
兼任	講師	
		食品学Ⅰ 食品学実験Ⅰ 食品学実験Ⅱ(食品加工学実習含む)
兼任	講師	
兼任	講師	
		調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ
兼任	講師	
		運動生理学
専任	講師	
		調理学 調理学実験 栄養実習
兼任	講師	
		ライフステージ栄養学実習
兼任	講師	
		調理学実習Ⅲ
兼任	講師	
		食物栄養特別演習※

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実))、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。



(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- 関東信越厚生局の指導により、担当者を以下のとおり追加・変更する。
- ・ 担当科目「運動生理学」を削除し、 を兼任講師で追加。
  - ・ 担当科目「ライフステージと食生活」「ライフステージ栄養学実習」を削除。
  - ・ 「ライフステージと食生活」を の担当科目に追加。 を兼任講師で追加し「ライフステージ栄養学実習」を担当。
  - ・ 担当科目「調理学」「調理学実験」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」を削除。
  - ・ を兼任講師で追加し「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」を担当。
  - ・ を兼任講師で追加し「調理学」「調理学実験」を担当。
  - ・ 担当科目に「ライフステージと食生活」を追加。科目の追加に伴い「食品学Ⅰ」を削除し、 を兼任講師で追加し「食品学Ⅰ」を担当。
  - ・ の「解剖生理学Ⅰ」を に変更。
  - ・ の「食品学実験Ⅰ」「食品学実験Ⅱ（食品加工学実習含む）」を に変更。
  - ・ の「給食管理実習Ⅱ（校外実習）」を削除。

兼任教員・兼任教員の退職に伴い、担当者を以下のとおり変更する。

- ・ が平成31年3月で宇都宮短期大学を退職したため兼任准教授から兼任講師へ変更し、担当科目「全人教育講座」を削除。
- ・ が宇都宮共和大学を平成31年3月で退職したため削除し、 を兼任講師で追加。
- ・ が定年延長のため、兼任講師から兼任教授へ変更し、「全人教育講座」オムニバス1コマを担当。
- ・ が平成31年4月に昇任に伴い、兼任講師から兼任准教授へ変更。

【令和2年度】

- ・ 助教の退職に伴い、令和2年4月より が兼任講師から専任講師に就任。「製菓実習」の担当科目追加。令和2年2月教員審査済み。
- ・ の担当科目だった「調理実習Ⅲ」の担当を 「食物栄養特別演習」の担当を とし、兼任講師として就任。
- ・ を兼任講師から専任講師として就任（令和2年2月教員審査済）。「製菓実習」の科目追加。
- ・ の就任辞退に伴い「ライフステージ栄養学実習」を （ともに兼任講師）に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
5 名	2 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
3	2	1	1	7	3	3	2	2	0	7	3
(3)	(2)	(1)	(1)	(7)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
3	2	2	0	7	3	3	2	2	0	7	3
[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{7}{7} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{7} = \boxed{28.57} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{3}{3} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
				選択	調理学実習Ⅲ	②				
				選択	製菓実習	①				
				選択	食物栄養学演習Ⅰ	①				
				選択	食物栄養学演習Ⅱ	①				
				選択	食物栄養特別演習※	②				
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	3	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	3	科目	計	2	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	3	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	3	科目	計	2	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{7} = 14.28 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

令和元年度後期の担当科目がなかったため、学生の履修等に特に影響はない。令和2年度開講科目については、専任教員と兼任教員で対応する。また、複数担当制の食物栄養学演習Ⅰ・Ⅱについては、すでに教員審査済の教員で対応することにより、教育研究の質の保証を確保する。学生への周知については、クラスアワー等で周知済である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画	
認 可 時 (30年)	本学科は栄養士の資格取得を目的とするとあり、教育課程等から指定科目の履修が卒業要件となることも確認されたが、その旨を学生に対してわかりやすく明示すること。	留意事項 入学後のオリエンテーションにおいて、学生生活に必要な学則、各種規程、細則等を記載した『学生便覧』を配付し、教務委員やクラス担任から説明し、履修登録の方法や単位取得の重要性について周知を図った。具体的には、「食物栄養学科履修細則」を制定し、卒業単位として「基礎教育科目」より10単位以上、「専門教育科目」より52単位以上(栄養士養成のための指定科目50単位以上と指定科目以外2単位以上)、合計62単位以上を修得することを明示している。また、「栄養士資格取得規程」を定め、栄養士資格取得のための履修方法や指定科目、単位の授与、栄養士国家資格は、指定科目50単位以上と本学の卒業に必要な単位を修得し、本学を卒業することで取得できることを明示している。	履行済	各科目の授業において、栄養士資格取得のための指定科目であることを説明し、卒業要件に必要な単位数等を年2回のオリエンテーションを通じて学生にわかりやすく周知し、栄養士として必要な科目別内容の理解と、着実に単位を修得することを指導していく。また、次年度の学生募集に当たっては、栄養士資格取得について、指定科目の履修と本学の卒業要件を明示した学校案内や募集要項を配布し、周知・説明をしていく。
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	入学定員未充足の改善に努めること。(食物栄養学科)	改善事項 定員30名の入学者を目指して、募集活動を実施した。開設時は20名の入学者であったが、今年度は25名になった。さらに、募集活動を強化して定員充足を目指していく。	履行中	本学科の紹介内容に、1年間の教育研究の実践・成果と令和2年度の計画を踏まえたものをできるだけ多くの高校生とその保護者及び県内の高校に発信して、本学科の魅力を伝えていく。

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <食物栄養学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>○専任教員が担当する主要な1科目を添付したシラバス（授業計画）について、「調理学実習Ⅰ」を添付。</p> <p>○給食管理実習Ⅱ（校外実習）担当教員が実習指導教員として順次実習施設を訪問して直接学生の指導を行う。</p>	<p>関東信越厚生局の指導により、「調理学実習Ⅰ」の担当が別の教員に変更になったため、「製菓実習」のシラバスに変更する。（シラバス添付）（元）</p> <p>関東信越厚生局の指導により、「給食管理実習Ⅱ（校外実習）」の科目担当を「准教授2名講師1名助教1名」から「准教授1名」に変更したため、巡回指導について次のとおりに変更する。 実習中は、科目担当教員または管理栄養士の資格をもっている実習巡回指導教員が、実習施設を訪問して、学生指導を行うこととした。（元）</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>宇都宮短期大学自己点検・評価委員会規程に基づき、自己点検・評価推進部会に関する細則を制定し、さらに「宇都宮短期大学自己点検・評価推進部会FD部会内規」及び「宇都宮短期大学自己点検・評価推進部会SD部会内規」を定め、その下にFD部会とSD部会を設置している。</p> <p>b 委員会の開催状況</p> <p>PDCAサイクルを有効に機能させるため、年度当初に自己点検・評価推進部会を開催し、学科内における各委員会等の活動方針を討議し、全学の自己点検・評価委員会及び教授会の議を経て当該年度の改善方針を決定している。</p> <p>また、同部会は年度途中に各委員会の活動状況を検証し、さらに年度末に翌年度の施策につなげるために、当該年度の活動効果と改善点を検証している。その中で、FD・SD研修会の計画を立て実施している。自己点検・評価委員会の発議により教授会で審議した施策は、学長が決定し各委員会が主体となって実践している。</p> <p>令和元年度は、第1回自己点検・評価委員会を4月12日に開催し、学科内の各委員会からの平成30年度のPDCAサイクルの評価と令和元年度のPを検討した。5月の教授会にて、自己点検・評価委員会が上記を報告し、了承を得た。以降、自己点検・評価推進部会を6月7日、9月13日、11月29日、1月7日、1月21日、2月4日、2月25日に及び3月27日に開催した。全学の自己点検・評価委員会を2月25日に開催して、元年度の総括を行った。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>委員会の審議事項は、①PDCAの実施、取りまとめ、分析、自己点検・評価報告書の作成に関する事、②自己点検・評価業務の実施状況の把握に関する事、③基礎データ等の収集に関する事、④学生による授業改善アンケートの実施、取りまとめ、分析及びこれに基づく教員の取組報告書の作成に関する事、⑤教員相互授業参観の実施、取りまとめ、分析、報告書の作成に関する事、⑥ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する事、⑦スタッフ・ディベロップメント（SD）に関する事等である。</p> <p>FD部会の目的は、本学の教育理念を実現することを目的として、教育・研究内容および教育方法の改善、個人の能力開発及び組織間の連携を推進し、組織的な職能開発に取り組むことである。この目的を達成するために、①教育研究活動改善のための立案に関する事、②FD研修プログラムの開発・実施に関する事、③FD活動の情報の収集と提供に関する事等を審議している。</p> <p>SD部会の審議事項は、①SD活動の推進・実施・啓発活動に関する事、②SD研修等の企画・実施に関する事、③SD活動の情報の収集と提供に関する事等についてである。</p>
--

## ② 実施状況

### a 実施内容

FD・SD活動の実施内容は、①学長による建学の精神に関する全人教育講座の受講、②研究倫理について学ぶための日本学術振興会のe-ラーニングの受講、③FD・SD研修会の企画、④授業改善アンケートの実施と評価・改善の施策等である。

FD研修会の実施内容は、前年度の学生による授業改善アンケートの結果から導き出された課題や国の教育施策、教育研究や授業方法の向上について、科研費申請奨励等などである。e-ラーニングを取り入れた授業方法や、学生の成績評価のあり方についてが課題となっている。キャンパスハラスメント防止・啓発、コンプライアンスについてもFD・SD研修として教職員協働で実施している。

### b 実施方法

- ①学生の必修科目である「全人教育講座」において、第1回目は、学長による「全人教育(人間形成の教育)」として、新任の教職員も受講し、本学の建学の精神を理解し、教育・学生支援に当たる意識を高めている。
- ②研究倫理について学ぶため日本学術振興会のe-ラーニングを受講している。
- ③FD・SD研修は、教授会において実施要綱の承認を得て(P)、研修を実施し(D)、研修を受けた全教職員によりアンケートや報告を受けてフィードバックを行い(C)、次年度へのFD・SD研修への見直しを行う(A)。研修の講師は、外部講師によるもの、専任教員の内部講師によるもの及び教職員が外部講演会や研修へ参加し学内報告会として開催するものがある。
- ④学生による授業改善アンケートは、前期・後期に開講するすべての授業科目について、原則として14回から15回目に授業改善アンケートを5段階評価と記述式で実施している。アンケートはスマートフォン又はPCでアクセスし、WEB上で実施できるシステムとして回答率の向上を図っている。

### c 開催状況(教員の参加状況含む)

- ①学長による建学の精神に関する全人教育講座は、平成31年4月19日に実施された。学生全員と新任の教職員は全員受講した。
- ②研究倫理について学ぶための日本学術振興会のe-ラーニングの受講は、新任教員は平成31年4月中に全員受講した。  
受講修了書を印刷して事務局へ提出し教授会に報告した。
- ③新しい学科のFD研修として、6月21日に、「授業改善アンケートの質問項目と実施方法について-学習成果向上のために-」と題して、アンケート実施に向けて、共通理解し、学習成果を向上させるための授業方法について研修会を開催した。
- ④7月5日に、宇都宮短期大学・宇都宮共和大学合同FD・SD研修会として外部講師による「学びを促す評価」を実施した。専任教職員が全員参加した。
- ⑤11月8日に、宇都宮短期大学専任教員及び事務職員を対象とした「内部質保証のためのルーブリックを用いた自己点検・評価活動」のFD・SD研修会を実施した。専任教職員が全員参加した。
- ⑥令和2年2月14日に、宇都宮短期大学・宇都宮共和大学合同FD・SD研修会として「性の多様性とLGBTへの理解」としてキャンパスハラスメント研修を実施した。専任教職員が全員参加した。
- ⑦令和2年3月6日～3月27日まで、e-ラーニングによる「情報セキュリティ研修会」を実施した。教職員は全員受講し、修了書を事務局へ提出した。事務局でまとめて教授会報告をしている。

上記、②～⑦は、教授会にて、あらかじめ研修会の計画を審議し、実施後に報告をしている。

### d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学生の授業改善アンケート結果をもとに、授業改善のための授業目標を検討し、次年度の授業目標を設定している。4月の教授会で審議・決定して、非常勤講師も含めて全教職員に周知し、授業を実施した。  
令和2年度の授業改善目標は、令和元年度の授業評価アンケート結果をもとに設定し、4月の教授会で審議・決定した。

## ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

### a 実施の有無及び実施時期

前期及び後期の終了時に実施した。

### b 教員や学生への公開状況、方法等

学生には、掲示により公開している。教員は、共通フォルダにて、担当科目とその経時比較、他の教員の評価、学科全体の評価等、知ることができるシステムとなっている。また、毎年、学科ごとに全体をまとめ、報告書を作成するとともに、次年度の課題を抽出し、授業改善目標を作成して、授業に当たっている。令和元年度の報告書を作成し、令和2年度の授業改善目標を設定した。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

宇都宮短期大学食物栄養学科の教育目標・目的は、① 広い教養と、自立・自律した生活者としての行動規範を身につける、② 豊かな人間性と感性をもち、食に係わる基本的な知識・技術・方法を身につける、③ 人間尊重の精神と、食に係わる専門的な知識・技術・方法を身につける、そして、④ 倫理性をもった栄養士として、食や福祉に係わる広い分野で地域や社会に貢献できる栄養士を養成することである。

食物栄養学科は、昨年4月に開設し、今年度は第2期生の学生を迎え入れた。1期生は、学習意欲も高く、学内の学びはもちろん、地域貢献活動として食育フェアや地域特産の野菜を用いたレシピの開発などを提案し、基本的知識・技術・方法を身につけるとともに、応用力も高めている。今年度は、1・2年生が揃ったところで、相互に情報交換と協力をしながら、学びの幅を広げて、地域に貢献できる栄養士を育てていきたい。

今後も設置計画を着実に履行し、教育目標・目的を達成し、地域でいきいきと活躍・貢献できる学生の教育と研究を進めると共に、学生確保のための募集活動を強化していく。本年度の学生募集活動は、積極的な高校訪問と、オープンキャンパス(4回、さらに土曜日見学会の実施)、進学相談会、出前授業等を展開する予定である。さらに、インターネット上でWEBオープンキャンパスを実施すべく準備を進めている。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表(予定)時期

令和2年7月末に報告書(宇都宮短期大学全体として3年ごと)を公表する。

令和3年7月末に完成年度をふまえた本学科の報告書を公表する。

###### b 公表方法

自己点検・評価報告書を取りまとめ、本学ホームページを通じて公開する。

##### ③ 認証評価を受ける計画

令和5年に評価機関(一般財団法人大学・短期大学基準協会)の評価を受ける(宇都宮短期大学)。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書(令和2年度)

a 公表予定の有無 [  有 ・ 無 ]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [  調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他( ) ]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。